

オアシス

Oasis

VOL. 60

◎特集

読んで
気づく、
すすめる、
男女平等
参画！



芝浦公園 Shibaura Park

読んで 気づく、 すすめる、 男女平等 参画！



「男女平等参画」と聞いても、どのような取り組みで何を目指しているのかわからない人が多いかもしれません。実は私たちがとりまく多くの問題や日々交わされる話題は、その多くが男女平等参画にかかわることなのです。

今号では、港区立男女平等参画センターの図書資料室の蔵書から、それぞれの視点でおすすめの本をご紹介します。あなたもこの中の1冊から、男女平等参画について考えてみませんか。

内藤和美さんのおすすめ

「男女平等参画の専門家」



『ダイバーシティ 生きる力を学ぶ物語 豊かな個性は価値創出の泉』
山口一男 著(挿絵 森 妙子)
「東洋経済新報社」

日米で社会学を牽引する研究者が、人々に、社会科学的問題を問うために著した「社会学者だからこそ書ける文学」。社会科学的ファンタジー「六つボタンのミナとカズの魔法使い」と教育劇・日米規範文化比較論「ライオンと鼠」の2作品から成ります。前者は、「普通」の人にはあるものがないために差別されやすく自己評価が低い少女ミナが、魔法使いカズに会いに行く冒険を通じて自己肯定に至る物語(個人にとってのダイバーシティの意義)。後者は、日本版とアメリカ版が全く違う趣になる劇「ライオンと鼠」を通じて、社会にとってのダイバーシティの意義を伝えています。



『ビッグツリー 自閉症の子どもと うつ病の妻を 守りぬいて』
佐々木常夫 著
「WAVE出版」

ワーク・ライフ・バランス実践の基本書といっぴよい一冊です。著者は、生活者として困難をもつ妻と子をケアしながら、企業人として高い成果を上げ、管理職やがて役員と重い責任を負って働いてきた人です。その記録である本書には、自分とは違うスーパーパーソンの他人事と感じさせない説得力があります。ライフとワークのエピソードがそれぞれとてもくっきりしていることや、両方も一切諦めない筆者の揺るぎない前提が、読み手が自身のワーク・ライフ・バランスを照らし合わせる材料としての「わかりやすさ」となっています。



内藤和美さん

岩手大学男女共同参画推進室特任研究員。保健学博士。昭和女子大学短期大学部助教授、群馬パース大学教授、芝浦工業大学男女共同参画推進室特任教授を経て、2018年4月より現職。公益財団法人日本女性学習財団評議員。専門はジェンダー研究、とくに、女性学・ジェンダー研究の学問論。

リーブラ職員の おすすめ

◎ 女性・社会へのメッセージ

女性が女性であることを理由に直面する困難を明らかにするとともに、現代社会に生きる女性を応援します。



『「ほとんどない」ことに見え隠れした社会の話。』
小川たまか 著
タパブックス



『よりよく生き延びる ー3.11と男女共同参画センター』
(公財)せんだい男女共同参画財団 編
新潮社 図書編集室



『エンパワーメント ー働くミレニアル女子が身につけたい力』
大崎麻子 著
経済界



『大人女子の安心シングルライフプラン』
じゃこめていsingle life 編集部 著
じゃこめてい出版

◎ 子どもと読みたい

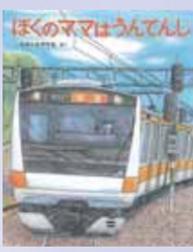
性別に基づく「らしさ」が子どもたちの目に色眼鏡をかけてしまうこともあります。子どもたちが自分らしく生きられる未来を大人も一緒に考えることができます。



『「なっぶん」ってなんだ？ LGBTについて知る本』
特定非営利活動法人ReBit 監修
殿ヶ谷美由記 著
学研プラス



『マンガでわかる オトコの子の「性」』
村瀬幸浩 監修
染矢明日香 著
合同出版



『ぼくのママはうんてんし』
おおもやすお作
福音館書店



『子どもが
すすく保育園・保育園』
猪熊弘子、寺町東子著
〔内外出版社〕

2人の著者は幼児教育・保育に関する取材経験豊富なジャーナリスト(猪熊氏)と保育事故をよく扱っている弁護士(寺町氏)です。これから子どもを預けて働こうと考えている保護者の方には是非読んでいただきたい1冊です。子どもの安全が守られ、自主性が生まれ、真の学びにつながるような園は「お受験的なもの」とはだいぶ違うことが分かるでしょう。



『アリーテ姫の冒険』
ダイアナ・コールス著
(公財)横浜市男女共同参画
推進協会 監修
〔大月書店〕

原題は“The Clever Princess”(賢いお姫様)。おとぎ話のお姫様物語に描かれるジェンダー・ステレオタイプ(男らしさ、女らしさの決めつけや偏見)を批判的に考察しつつ、子どもも大人も楽しめるお話になっているのが特徴です。主人公のアリーテ姫は知力と強さを生かして、自分の人生を切り開いていき、彼女を応援する中高年女性たちも活躍します。

※こちらは復刻版です。リーブラ図書資料室は旧版(学陽書房)を所蔵。

治部れんげさんのおすすめ

「ジャーナリスト」



治部れんげさん

ジャーナリスト。東京大学大学院情報学環客員研究員、東京都男女平等参画審議会委員(第5期)、日本政府主催の「国際女性会議WAW!」アドバイザー。著書に『稼ぐ妻・育てる夫〜夫婦の戦略的役割交換』(勁草書房)、『炎上しない企業情報発信〜ジェンダーはビジネスの新教養である』(日本経済新聞出版社)等。



『女性ホームレスとして生きる』
丸山里美著
〔世界思想社〕

学生時代から14年間、ホームレスの人々の生活の現場に関わりながら行われた貴重な研究の成果(博士論文)をまとめた労作です。女性ホームレスはホームレス全体の3%を占めるにすぎません。社会的にも研究上も不可視であった女性ホームレスの経験や生活実態が詳細に明らかにされ、これまでのホームレスの人々への社会的対応やその根拠となる調査研究が、「ホームレスは路上生活(野宿)をする男性である」ということを暗黙の前提にしていたために、女性が見えにくく扱われにくかったことが分析されています。



『虐待をこえて、生きる 負の連鎖を断ち切る力』
内田伸子、見上まり子著
〔新曜社〕

日本を代表する発達心理学者と、子ども虐待の被害と加害二重の当事者の共著。第1章〜第4章(内田伸子)は、長年の研究成果を広く社会に還元するために、一般書として、否定と強制の過酷な環境下で深く傷つき発達に悪影響を受けた人が、適切な環境に置かれ直すことで再生する人間発達の可塑性・可能性を示しています。焦点は、肯定的な人現関係と自己表現。それを具現・実証する当事者による第5章(見上まり子)は圧巻です。類まれな分析力と表現力で、虐待されて育った人と虐待してしまう人の認識・境地、書くことを通じてそれらがずらされていく過程が示されています。

リーブラ職員のこれもおすすめ



『『女性活躍』に翻弄される人びと』

奥田祥子 著
光文社



『働く場のリアル』
女性労働研究 第61号』

女性労働問題研究会 編
すいれん舎

◎女性の労働を考える
雇用機会均等、M字カーブなどから、女性活躍推進働き方改革が語られる現代。女性の労働を働く人の視点で捉え、すべての人が生きやすい社会を考えます。



『炎上しない企業情報発信』
〜ジェンダーはビジネスの新教養である』

治部 れんげ 著
日本経済新聞出版社



『お姫様とジェンダー』
アニメで学ぶ男と女のジェンダー学入門』

若桑みどり 著
筑摩書房



『ベル・フックスのフェミニズム理論』
一周辺から中心へ』

ベル・フックス 著 野崎佐和、毛塚翠 訳/あけび書房



『ジェンダー研究を継承する』

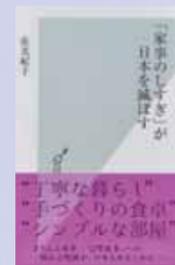
佐藤文香・伊藤るり 編
人文書院

◎ジェンダー
ジェンダーに関する専門書から、ジェンダーを視点にして社会を考える書籍など、リーブラが最も豊富に取り揃える分野です。



『産後が始まった!』
夫による、産後のリアル妻レポート』

渡辺大地 著
KADOKAWA / メディアファクトリー



『『家事のしすぎ』が日本を滅ぼす』

佐光 紀子 著
光文社

◎夫婦で読みたい
家事・育児・介護・仕事。共働き世帯が増える中で、親の世代になかった生き方、暮らし方を求められる世代へのヒント、メッセージが詰まっています。

治部れんげさんのおすすめ 2

『男女平等は進化したか』

鹿嶋敬著 「新曜社」



著者は国の男女共同参画社会基本法が制定された1999年以降、2015年まで同計画の策定全てに関わった専門家です。他の政策と同様に、男女共同参画政策もその時々政治リーダーの価値観や人柄に左右された様子が見えます。本のタイトルに対する著者の答えは「固定的性別役割分担との戦い」に関する章で詳しく記されています。

『メディア文化とジェンダーの政治学』

田中東子著 「世界思想社」



「かわいいものを否定しないとフェミニストにはなれないのだろうか」。あとかぎの冒頭に書かれたこのような疑問を抱いた方も少なくないと思います。結婚、出産、家庭等を優先する「女らしい生き方」を必ずしも否定せず、それでも他人の価値観を押し付けられずに自分らしく生きたい、と考える新しい世代のフェミニストを目指す方にお勧めです。

『ある奴隷少女に起こった出来事』

ハリエット・アン・ジェイコブズ著 堀越ゆき訳 「大和書房」



著者はアメリカ合衆国に奴隷制度が残る時代に、奴隷として生まれ育った女性。協力者を得て逃亡した著者が自由を獲得するまでの物語は、いかなる環境にあっても個人として生きることができる可能性を見せてくれます。翻訳者はグローバル企業に勤務するコンサルタント。なぜ、この時代にこの物語を日本語に訳したのか。あとかぎも是非読んでみてください。※リーブラは文庫版(新潮社)所蔵

DVDのおすすめ



『女を修理する男』

©Copyright: 2015 The Man Who Repaired Women. All Rights Reserved.

コンゴ民主共和国で、命の危険を省みず性的被害にあった女性達を治療する婦人科医のデニムクウェゲ医師を追ったドキュメンタリー。彼はこの活動により2018年ノーベル平和賞を受賞した。



『ハンズ・オブ・ラブ 手のひらの勇気』

©2015 Freshed Movie, LLC. All Rights Reserved.

同性愛者の権利を求めて戦ったローレルとステイシー、二人の女性の実話を元にした映画。病に冒されたローレルが制度の改正を訴える声はやがて社会を動かす。



『イングリッド・バグマン』

©Mantary Film AB. All rights reserved.

女優イングリッド・バグマン生誕100周年記念のドキュメンタリー。女優としての輝かしい軌跡とともに、自分らしく生きることを貫いた一人の女性の姿を描く。



『パレードへようこそ』

©The Production Line, Limited. British Broadcasting Corporation. The British Film Institute 2014. All Rights Reserved.

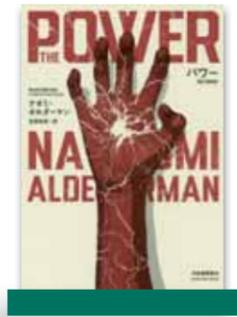
1984年サッチャー政権下、炭鉱夫らのストライキに連帯したゲイとレズビアン活動家たちの実話を元にした映画。感動とともに、当時の英国で同性愛者や女性がどのような立場だったかを知ることができる。

ブックレビュー

リーブラの図書資料室に所蔵する約15,000点以上の資料の中から、お勧めの本を紹介。リーブラの図書は港区図書館カードで借りることができます。ぜひご利用ください。

『パワー』

ナオミ・オルダーマン著 安原和見訳 「河出書房新社」



それまで男性に虐げられていた女性が、「パワー」を持つことで、立場が逆転してしまった世界が描かれた小説です。強大な力を持った女性によって、男性は権利を奪われていきます。少し前までの現実の女性たちのように。そして復讐、虐待や戦争……。男性読者からすると恐ろしいSF小説ですが、単なる空想譚ではありません。男女格差、女性嫌悪、性的虐待、DVなど女性に対してこのような虐待や扱いが、この地球上で実際に起きていた、いえ起きていることは事実です。作品の冒頭と終わりの架空の書簡のやりとりも、現実社会への皮肉めいたメッセージが込められています。(協力委員:尾崎綱賀)

『18歳からの民主主義』

岩波新書編集部編 「岩波書店」



18歳の娘に選挙に行くことを勧める際のヒントになれば、と手に取りました。初めて投票に行く若者だけではなく、すでに選挙に行っている大人にも改めて選挙に行くことの意味と大切さを実感させてくれます。前半では「選挙とは民主主義とは」といった基本的な問いに、その道の達人が分かりやすく解説し、後半では18歳のアイドルグループのメンバーから101歳のジャーナリストまで、様々な世代が民主主義への熱いメッセージを寄せています。社会に声をあげている大学生や弁護士を目指して日本の大学で勉強中の在日コリアンの女性などの意見に、同世代である娘がどういった感想を持つのか聞きたくなりました。(協力委員:桐井慶子)

連載 映画から読む

ジェンダー Gender

木村朗子(きむらさえこ) 津田塾大学 国際関係学教授

最終回 日進月歩のジェンダー表象

『アバウト・レイ 16歳の決断』

[2018年公開]

ゲイビー・デラル監督

発売元:ファントム・フィルム 販売元:ハビネット DVD 発売中 3,900円(税別) ©2016 Big Beach, LLC. All Rights Reserved.



本作は、FTM(女性から男性)のトランスジェンダーのレイが16歳になってホルモン治療を受けて本格的に性別を変えようとするのをとまどいながら受け入れる家族の物語だ。アメリカでは未成年のホルモン治療には両親のサインが必要だ。母親は別れた夫に会わねばならず、離婚のきっかけとなった自らの若い日の過ちに向き合わねばなくなる。同居しているレイの祖母は若い頃結婚して娘を産んだが、今はレズビアンとして女性のパートナーと仲良く暮らしている。祖母にはレイが男になりたいというのが理解できない。女が好きなら、なんでレズビアンじゃダメなの?とってしまうのだ。レイにとっての問題とは恋愛対象が女性であることではなくて、自分は男だという性自認があるのに女性の体であることに対する違和感なのだ。

この映画でレズビアンを演じるのがスーザン・サランズであるのは『テルマ&ルイズ』(1991)を覚えて

いる観客にはうれしい配役だ。『テルマ&ルイズ』はレイプされそうになって男を殺してしまい、女二人が逃亡するロードムービーだ。犯罪者がアンチヒーローとなって逃亡する物語としては、『俺たちに明日はない』(1967)、『明日に向かって撃て!』(1969)などがあつたが90年代になってようやく女二人の悪漢映画が出てきたのである。

テルマとルイズは警察に追いつめられて谷間に車ごとダイブして死んでいく。死を決意してアクセルを踏みこむ直前に二人が交わすキスは、映画における同性愛表象を追ったドキュメンタリー『セルロイド・クローゼット』(1997)にも取り上げられていて、レズビアンたちの妄想をかきたてた名場面だ。『アバウト・レイ』でのパートナーとのカッコイイ暮らしぶりに、同性愛イメージの著しい変化が重なる。映画は社会を映す鏡だ。LGBTのイメージは刻々と進化しているのである。

平成31年度のお知らせ

リーブラ主催講座の テーマのご紹介

港区立男女平等参画センターは、「すべての人が、性別に関わりなく、自分らしく豊かに生きることができる社会」の実現に向けて、様々な切り口で講座を開催しています。

仕事と家庭の両立支援

- ライフステージと働き方
- 男性のための子育て講座
- 介護と仕事の両立支援

社会問題

- 性暴力予防啓発
- ドメスティック・バイオレンス
- ハラスメント防止、理解
- SDGs

女性のエンパワーメント

- シングル女性の生き方応援
- 女性の起業・再就職支援
- 女性の健康
- シングルマザー支援

ダイバーシティ

- 多様な性(LGBTなど)
- 海外に学ぶ男女平等参画

企業の取組

- ワーク・ライフ・バランス
- メディアと情報モラル
- 多様性の理解と社内の取組

シアターリーブラ

4月以降購入予定の 図書のご紹介

今後も、様々なテーマの書籍を購入していきます。
お楽しみに!

- 『働き方改革 個を活かすマネジメント』 …… 大久保幸夫、皆月みゆき 著／日本経済新聞出版社
- 『社会学はどこから来てどこへ行くのか』 …… 岸政彦 他 著／有斐閣
- 『政治に口出しする女はお嫌いですか?』 …… 工藤庸子 著／勁草書房
- 『もし明日、親が倒れても仕事を辞めずにすむ方法』 …… 川内潤 著／ポプラ社

指定管理者の 変更に伴うお知らせ

平成31年度から指定管理者が変更となります。
現在のメールマガジンなどについては再登録や変更などの手続きが必要です。
詳細は、リーブラ館内やホームページで順次お知らせしてまいります。

◎
今
号
の
表
紙



芝浦公園

平成28年7月28日に新たに整備された芝浦公園は、田町駅東側の東京モノレール沿いにあります。港区立男女平等参画センターも入った施設「みなとパーク芝浦」とともに、早くも近隣の区民のみなさんの憩いの場、交流の場として親しまれています。

港区男女平等参画情報誌「OASIS オアシス」第60号
平成31年(2019年)3月発行(年4回発行)

発行：港区立男女平等参画センター指定管理者
パースルテンプスタッフ株式会社
〒105-0023 東京都港区芝浦1-16-1 みなとパーク芝浦

協力委員：尾崎綱賀・桐井慶子
デザイン：鈴木清直 イラスト：別府由美子(表紙)・喜瀬みゆき(本文)

港区立男女平等参画センター「リーブラ」

〒105-0023 港区芝浦1-16-1 みなとパーク芝浦2階
Tel.03-3456-4149 Fax.03-3456-1254
▶http://www.minatolibra.jp ▶Twitter:@minato_libra

アクセス

- JR「田町駅」東口(芝浦口) 徒歩5分
- 地下鉄浅草線・三田線「三田駅」A6出口 徒歩6分
- ちいばす 芝ルート・芝浦港南ルート(品川駅港南口行)「みなとパーク芝浦」徒歩0分
芝浦港南ルート(田町駅東口行)「芝浦一丁目」徒歩4分
- 都営バス(田92-99)「田町駅東口」徒歩7分

